

トーレル【泌尿器】療法

注射薬

投与順序	外観	お薬の名前	お薬のはたらき
1		ポラミン注	副作用予防のお薬です
2		リル・コラー注+ファモチジン注	副作用予防のお薬です
3		トーレル注	治療のお薬です。約1時間かけて点滴します。

投与スケジュール

薬品名	日数																											
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
トーレル注	↓							↓							↓							↓						

毎週1回点滴します。

トリル療法【泌尿器】

よく起こる副作用

★骨髄障害

発生時期 薬剤投与日から7～14日後に減少します。

症状 骨髄には造血細胞と呼ばれる白血球（細菌などから体を守る）、血小板（出血を止める）、赤血球（酸素を運ぶ）の元になる細胞があり、この造血細胞にお薬が作用して造血細胞に障害を及ぼすことを骨髄抑制（障害）といいます。骨髄抑制が起こると、白血球、血小板、赤血球の数が減少し、その働きも弱くなり、感染症や出血、貧血などの症状があらわれやすくなります。

<代表的な症状>

●感染症：37.5℃以上の発熱・寒気・ふるえ・のどの痛み など

●貧血：疲れやすい、めまい、立ちくらみ、動悸、顔色が青白い など

●出血：紫斑（原因不明のあざ）、歯茎からの出血、鼻血、月経量の増加、血が止まりにくい など

対処法 ○感染対策で最もポイントとなるのは、患者様自身の感染予防のセルフケアと感染の早期発見です。感染症をおこさないように、人ごみを避け、こまめにうがい、手洗いを行いましょう。白血球は一時的に下がっても、その後回復します。

○貧血では症状の自覚のないまま、転んだりして事故を起こす危険もあります。日常生活では十分な休養をとりましょう。また、いきなり動かず、動き始めはゆっくりとするように注意して下さい。

○血が止まりにくくなる場合がありますので、かみそりや爪きりのような鋭いものを使用する際には注意して下さい。打ち身や切り傷を作るような行為や激しい運動は控えるようにしましょう。歯ブラシも柔らかいものを使いましょう。

○症状に応じて、薬剤の投与や、輸血をする場合があります。

★口内炎

発生時期 薬剤投与日から3日目～10日目位まで

症状 口内がひりひり傷んだり、灼熱感を感じます。潰瘍、出血をとまなうこともあります。

対処法 ○食事後はやわらかな歯ブラシを用いてあまり力を入れすぎず丁寧なブラッシングを行い、口腔内を清潔に保ちましょう。

○口内炎の痛みがひどいときには医師又は看護師にお知らせ下さい。適切な薬剤により口内炎を軽くすることができます。

★皮膚症状（皮膚の乾燥・炎症など）

症状 ○にきびのような発疹ができることがあります。

○皮膚が乾燥することがあります。

○皮膚にひび割れができることがあります。

対処法 ○治療を行っている間は、皮膚症状を予防するために、保湿効果の高いクリームなどを使って皮膚の乾燥を防ぎましょう。

○直射日光をさけたり、日焼け止めを使ったりして、紫外線による刺激を防ぎましょう。

○体を洗う際には、刺激の少ない石鹸を使いましょう。

○皮膚症状の程度が軽ければ、症状が悪化しないように治療を行ったり、場合によってはお薬の量を減らしたり、一時的に治療をお休みすることで治療を継続することができます。そのため、上記のような症状を少しでも感じたら、担当医師や看護師、薬剤師などの医療スタッフに相談してください。

★高血糖

★高血糖

発生時期 ○治療開始日より数日～

症状 ○血糖値が高くなることがあります。症状としてはのどの渇き、多量に水分を摂ることからくる多尿、倦怠感、体重減少などがあります。

対処法 ○血液検査で血糖値を測って観察します。状況に応じて血糖値を下げるお薬や注射(インスリン)を使用することもあります

★過敏反応 (インフュージョンリアクション)

発生時期 薬剤投与中～投与開始後24時間以内

症状 発熱、疼痛、ほてり、頭痛、頻脈・心悸亢進(心拍数が著明に亢進すること)、血管浮腫(舌・喉のはれとして認められることがあります)、咳・呼吸困難、そう痒(かゆみ)、吐き気、虚脱感、悪寒(震え)、発疹などがあらわれることがあります。

対処法 ○インフュージョンリアクションのおそれがある場合は薬剤の投与前に予防薬を投与します。
○点滴中、点滴後(特に24時間以内)においても気になる症状が現れた場合には、すぐに医師や看護師・薬剤師に知らせてください。

頻度は少ないが注意を要する副作用

★間質性肺炎

発生時期 薬剤投与後数日～数週間

症状 ○発熱、から咳、呼吸困難(息苦しい)、頭痛、倦怠感などの風邪のような症状があらわれることがあります。

対処法 ○起きる頻度はまれですが、症状の軽いうち(風邪のような症状)から治療する必要があります。

その他の副作用

★その他

症状 高脂血症、悪心、嘔吐、食欲不振、倦怠感、下痢、味覚異常 など

対処法 ○症状に応じて対症療法を行います。

★◆ 注意事項 ◆

症状 このお薬を使用している方は、生ワクチンを接種することはできません。
→生ワクチン：BCG、ポリオ(経口生ワクチン)、麻疹風疹混合ワクチン(MR)、麻疹(はしか)、風疹、おたふくかぜ、水痘、黄熱、ロタウイルス

対処法 ○抵抗力が下がっている状態で生ワクチンを接種すると、ワクチンの病原性があらわれることがあります。その他の予防接種も効果が得られない可能性があるため、主治医へ相談してください。

副作用は薬剤ががん細胞を攻撃するとき一部の正常の細胞にも影響を与えてしまうことにより起こるものです。

もちろん正常な細胞は治療が終わればもとに戻りますし、副作用も少しずつ回復します。

副作用の出かたや、程度は個人によってさまざまであり、副作用の全てが現れるとは限りません。

大事なことは予想される副作用を十分理解し、その対処をすばやく行うことです。そして副作用があらわれた場合はもちろん、それ以外でも気になることがありましたらどんなことでも、主治医や看護師、薬剤師に相談して下さい。

医療法人敬愛会 中頭病院 (薬剤部)

